

車検代、修理代、点検費などメンテナンス費用の出費を平準化 従業員が自分達で車両管理。“大事に使おう”意識の向上にも一役

株式会社 小野電業社 様

車検費用、点検費用、修理代など メンテナンス費用の出費を平準化

株式会社小野電業社様は、北海道夕張郡由仁町を拠点に、オール電化やエコキュート、ドアホンや火災報知器の設置などの一般家庭向け電気工事から、ビニールハウス・農事用動力などの農業向けサービス、各種プラントや工場の電気設備の設計・施工に至るまで幅広い電気工事を手がけている会社だ。高所作業車を持っていることから、地元の自治体などから街路樹の伐採や街路灯の電球交換などを依頼されるという地元密着型の一面を色濃く持つ一方、大手の生コンプラント企業の配電設備を一手に引き受け、道内各地はもとより道外やロシアなどに出向いて工事を行うなど、その技術力が高く評価されている。

小野電業社様では16年前に購入した高所作業車に対して、昨年の4月からメンテナンス契約を導入。現場を取り仕切っている秋場秀穂部長は、「当社の場合、函館・帯広・釧路などかなり遠方に出かけることが多く、高所作業車もほかの作業車も積載ギリギリまで荷物を積むなど、かなり酷使しています。ですから車検や特定自主検査のときには部品交換も発生し、さらに冬タイヤの交換などが重なると1度に50万円を超える出費になることもあります。そうした費用が月々に平準化できることがありがたかった」と、メンテナンス契約を結

んだきっかけを語る。

小野電業社様では、車両の作業機械部分の点検はアイチで、トラック部分の点検は地元の整備工場が請け負うタイプを選択しているため、メンテナンス契約が整備工場との信頼関係構築にも一役買っている。「もともと仕事を出してもらってはいたが、メンテナンス契約のおかげで値段交渉の苦勞も少なくなった」と秋場部長は笑う。現在、高所作業車1台のほか、作業車5台のメンテナンス契約も結んでいる。

メンテナンス契約して丸1年、 約30%のコスト削減を実感

小野電業社様では、メンテナンス契約によって車両管理の煩わしさが軽減されたことから、車両ごとに管理担当者を決めている。契約先からメンテナンスの連絡が入ると、それぞれの担当者が自分達の作業予定を見ながらメンテナンスの時期を決める。あらかじめ整備工場と連絡をとるから代車の手配の心配もな

い。従業員の間に“きれいに使って、きれいな車を持ち込もう”という気持ちも出てきた。

2009年10月、エコカー減税の活用により40万円程の節税効果が出る機会をとらえ、長年の酷使で限界に来ていた高所作業車を買替えたが、その時点でメンテナンス契約を継続することは決定していたという。「メンテナンス契約から丸1年を過ぎて、年間のトータルコストで少なくとも30%はコストの圧縮ができたと感じています」と語るのは小野美智子社長。「たとえば、以前は経費が厳しいのでタイヤ交換を2本ずつに抑えるようなこともあったのですが、メンテナンス契約をしてからは冬タイヤも早めの交換ができるようになりました。冬の北海道は特に交通事故が多いので、そのリスクを少しでも少なくして、従業員が本当に安心して車を使えるようにしています。それでこちらも安心してきますから」

「お客様には100万ドルの笑顔を見せよう」を合言葉に、フットワークよく働く社員の安心の一端を、メンテナンス契約が支えている。



電気工事業者と建設業の資格を持つ小野電業社様

●メンテナンス契約データ

契約開始日：平成20年4月

対象機種：SH12Aほか作業車5台

契約概要：特定自主検査

契約概要：オイル交換、タイヤ・ワイパー点検、車検、故障、修理



小野電業社 小野美智子代表取締役



小野電業社 秋場秀穂 部長



電気工事に出勤したSH12A。多種多様な作業内容に対応するため、車両の右側をアオリ付きの荷台にした特別仕様となっている